



## 薬用植物園補助園の紹介

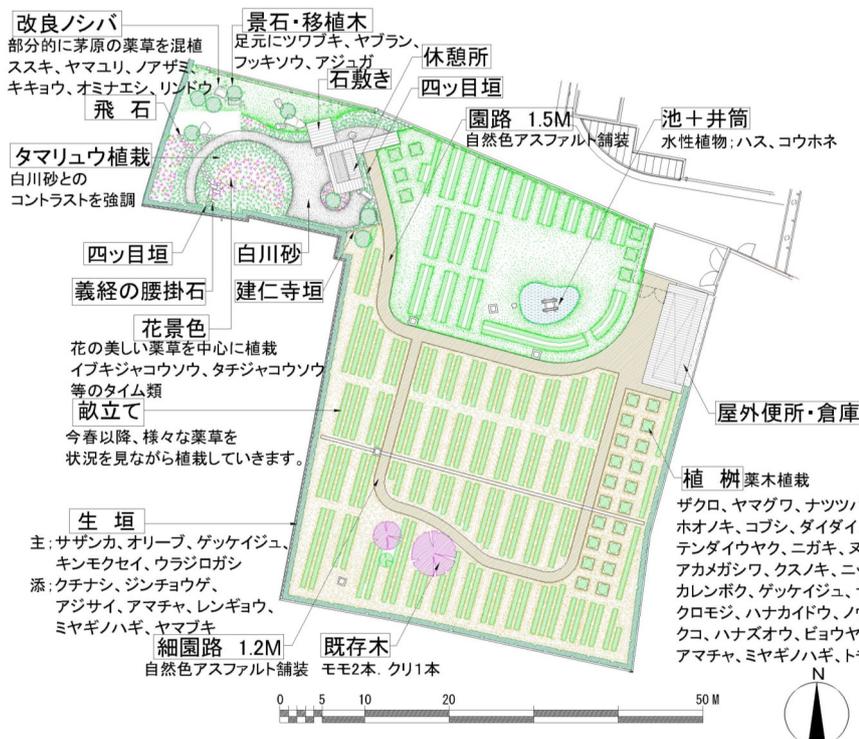
薬用植物園補助園 助手 前田 晋作

薬用植物園補助園をご存知でしょうか。薬用植物園補助園（以下「補助園」という）は2011年10月31日に完成しました。

敷地には圃場や庭園ゾーンなどがあり、それぞれ場所で薬用植物を育てています。

今回はできたばかりの補助園をご紹介します。

場所は本学グラウンドの南側にあります。2700㎡



## CONTENTS

薬用植物園補助園の紹介 ..... 1~3

新任のご挨拶 ..... 3

特集 新カリキュラム 1年次 薬学教養科目  
「早期体験学習」を終えて ... 4~7

2012年度 総合薬学研究・総合薬学演習  
卒業論文発表会 ..... 8

第4回学生満足度調査 集計結果報告 ..... 9~11

2012年度大学説明会の学外開催の結果について ..... 11

2012年度 6月、8月のオープンキャンパス開催 ... 12~13

バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた  
疾患治療ファルマコメタロミクスの確立  
キックオフシンポジウム 報告書 ..... 14~16

Library News ..... 17

2012年度京都薬科大学給付型奨学生 ..... 18~19

卒業生からのメッセージ ..... 19

2013年度大学院薬学専攻博士課程及び  
薬科学専攻博士前期・後期課程入学選考結果 ..... 20

クラブだより ..... 20~21

受賞・掲載 ..... 22~23

「身近な夏の不思議体験2012 イン 山科」開催 ..... 23

お知らせ ..... 23

京薬会だより ..... 24

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録 ..... 24

ほじょう うね

### ■ 圃場の畝

園内に入ると、まずは圃場が見えます。圃場には畝が作られ、そこでは31種類の薬用植物を栽培しています。これらの植物は、本学附属薬用植物園で栽培されている植物の種苗を運んできて育てているものです。植物たちは少しずつ成長しています。



圃場

うえます

### ■ 樹木の植樹

圃場各所には薬木が植栽された植樹があります。種数はキハダやアマチャ、コブシ、テンダイウヤクなど全部で26種あり、まだ樹高が低いものが多いです。これらの樹木の中で一番大きいものがトチュウの木です。4mほどの高さがあります。



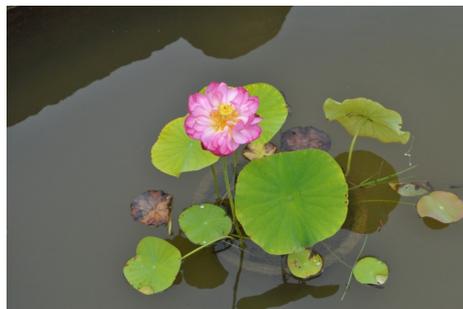
植樹の樹木

### ■ 池

入口近くには池があり、ハス、コウホネなどの水生植物を見ることができます。池の中にはかつて本  
いづつ  
校地で使用していた井筒があります。井筒には昭和8年と刻まれています。池にはアマガエル、ゲンゴロウ、アメンボなどが、どこからかやって来て生息しています。



園内の池



池で咲いたハス

### ■ 庭園ゾーン

西側には庭園ゾーンがあります。庭園はタイサンボクなど元々本校地にあった樹木やタマリユウ、タイムを中心に植栽されています。また、キキョウやオミナエシなど茅原の薬草の混植も行われています。この場所には史跡「義経の腰掛石」があり、それを見学しに来る方もいます。庭園ゾーン入口には東屋もあり一休みできます。



庭園ゾーン



義経の腰掛石

### ■ 生垣

園内はクチナシやオリーブ、ゲッケイジュなど6種の樹木で構成された生垣で囲われています。



生垣

■植物の観察

植物の成長や花の開花の様子を観察できることもあります。



モモ	レンギョウ	ジンチョウゲ	ミツマタ
アジサイ	ナンテン	ノアザミ	ボタン
ビヨウヤナギ	ツクシノイバラ	アマチャ	クチナシ

花々の開花



薬用植物「クララ」の成長

■これからの補助園

以上補助園内を紹介してきました。できたばかりの補助園ですが、これからは薬用植物がよりよく育つ環境づくりを進めていくとともに、学生が学びやすい場所、職員や地域の方々に親しまれる場所になるよう整備を行っていきます。

ぜひ一度補助園に足をはこんでみてください。

新任のご挨拶



生命薬科学系  
生化学分野

教授 中山 祐治

平成24年7月1日付で生化学分野に着任いたしました。私は、平成2年千葉大学薬学部を卒業後、同大学院博士前期課程を修了し、サンド薬品株式会社（現ノバルティス）に入社しました。研究所勤務を経た後退社し、平成7年から千葉大学大学院薬学研究院で教育・研究に携わってきました。その間、米国ウイスコンシン大学マディソン校において研究する機会にも恵まれました。

主な研究テーマは、タンパク質チロシンリン酸化反応を介する細胞内情報伝達機構の解明でSrc型チロシンキナーゼを中心に研究しています。特に細胞分裂や細胞周期制御におけるチロシンリン酸化シグナルの役割などの分子機構解明を目指して研究を行ってきました。また、ある種の癌細胞ではチロシンリン酸化シグナルの異常亢進が報告されていることから、これらのシグナルの異常と癌病態との関連についても解析を行っています。さらに、細胞分裂期の同調方法や、線虫の発生分化における細胞分裂制御についても研究を行ってきました。タンパク質のチロシンリン酸化／脱リン酸化は可逆的な反応であり、シグナル伝達のONとOFFの制御を行います。多くの癌ではこのスイッチが壊れ、常にONになっていることが知られています。これまでも多くのことが明らかになりましたが、まだ不明な部分が多く存在します。本研究を通して、正常な細胞活動制御機構としてのリン酸化シグナルの解明と、病態に関連するシグナル伝達異常を解明することが、癌治療のあらたな標的の発見に繋がると考えています。

学生のみなさんは、自分自身が未だ気づいていない潜在能力と無限の可能性を持っています。研究活動を通して潜在能力を引き出し、学生自身が努力を惜しまず夢にむかって歩いて行く手助けをしたいと考えています。本学から素晴らしい人材を輩出できるよう誠心誠意、努力していくつもりですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

1年次生の皆さんが前期に有意義に楽しく体験したであろう『早期体験学習』は、新カリキュラムの下で今年度リニューアルしたものです。その新たに改良された学習内容が、ここで詳しく語られています。

今までからあった「病院・薬局見学」に「企業見学」が加わり、6年後の自分の進路を一層良く思い描くことが出来るようになったと思います。また「ようこそ先輩」では、4年次以降の学内での自分のあるべき姿を知ることが出来たことでしょうか。そして「プロダクト作成」では、「病院・薬局見学」あるいは「企業見学」について学習した内容をグループで話し合い、その成果を模造紙1枚でプロダクトを作りあげました。作成したプロダクトは、7月10日に中央講堂兼体育館で、ポスター発表を模して展示し意見の交換会を行いました。暑さにめげず学生同士また教員も含めての活発な意見交換が行われ、その後に優秀プロダクトを選ぶ投票が実施され、4グループが選ばれたのでした。

「医療人としての自覚、問題発見能力・解決能力、豊かな人間性の修得を目指すことを目的とする」この学習において、皆さんはきっと貴重な体験を味わい、自分の未来の姿を脳裏に描くことが出来たはずです。その未来像を現実化するのには、これからの皆さんの努力次第なのです。

2012年度1年次生の薬学教養科目「早期体験学習」は7月10日（火）本学中央講堂兼体育館にて行われたプロダクト発表・意見交換会を最終日として無事終了しました。この授業には、全教育職員が担当教員として配置され、担当の事務職員と連携して、これから薬学生としてのスタートを切る1年次生の導入教育として開講されています。今回、これまでの科目内容からの変更点や授業概要について授業時の風景写真などを交えて紹介します。

1. これまでの科目内容からの変更点

1) 全体像

「医療の担い手としてのこころ構え」によるヒューマニズム教育の充実と「基礎演習」ならびに「早期体験学習」による初期導入教育の充実を図りました。「医療の担い手としてのこころ構え」および「基礎演習」の詳細は割愛しますが、「早期体験学習」では、「病院・薬局見学」に加えて、「企業見学」を導入し、SGDやPBLを通して、学生自身が見学・体験の目的や成果を明確にするとともに、その成果をポスター発表会などで報告します（図1）。早期体験学習を通じて医療人としての自覚、問題発見・解決能力の修得、豊かな人間性の修得を目指すことを目的としています。

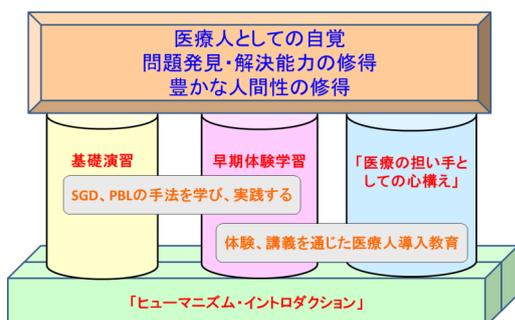


図1：新カリキュラムにおける

「ヒューマニズム・イントロダクション」の内容

2) 「早期体験学習」の主な変更点（図2）

- 【1】新たに「企業見学」、「ようこそ先輩」を設けました。
- 【2】「救命応急手当（AED講習を含む）」、「ハンディキャップ体験」、「ようこそ先輩」は選択制としました。
- 【3】「病院・薬局見学」、「企業見学」の前にガイダンスとともにSGDを導入し、見学の目的について討論しました。
  - ・基礎演習でSGDを体験済みであるため、学生60名程度で教員2名を配置しました。
  - ・早期体験見学ノートを作成、活用しました。
- 【4】課題提出、添削による文書作成能力（課題添削の導入）、プレゼンテーション能力向上のための基礎を学びました。
  - ・「薬害」講演会後のレポート提出を義務づけ、基礎演習担当教員が添削しました。
  - ・見学・体験内容について、学生10名程度（1つの班）で展示用プロダクトを作成しました。

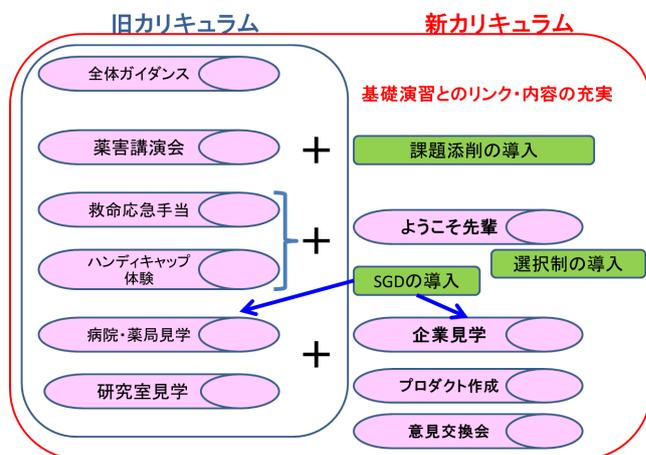


図2：早期体験学習の全体像

No.	日付	A・B	C・D	E・F	G・H	I・J	K・L
1	4/10	全体ガイダンス（選択項目アンケート：希望調査）					
2	4/17	「薬害」に関する講演会（レポート提出と教員による添削）（演者：増山ゆかり氏）					
3	4/24	救命応急手当（70名）、ハンディキャップ体験（40名）、ようこそ先輩（280名）					
4	5/1	研究室見学	研究室見学	ガイダンス&SGD	研究室見学	研究室見学	研究室見学
5	5/8	研究室見学	研究室見学	企業見学	ガイダンス&SGD	研究室見学	研究室見学
6	5/15	ガイダンス&SGD	研究室見学	研究室見学	企業見学	ガイダンス&SGD	研究室見学
7	5/22	病院・薬局見学	ガイダンス&SGD	研究室見学	研究室見学	企業見学	ガイダンス&SGD
8	5/29	研究室見学	病院・薬局見学	ガイダンス・SGD	研究室見学	研究室見学	企業見学
9	6/5	ガイダンス&SGD	研究室見学	病院・薬局見学	ガイダンス&SGD	プロダクト作成	プロダクト作成
10	6/12	企業見学	ガイダンス&SGD	研究室見学	病院・薬局見学	ガイダンス&SGD	研究室見学
11	6/19	研究室見学	企業見学	プロダクト作成	プロダクト作成	病院・薬局見学	ガイダンス&SGD
12	6/26	プロダクト作成	プロダクト作成	研究室見学	研究室見学	研究室見学	病院・薬局見学
13	7/3	プロダクト作成					
14	7/10	プロダクト展示、意見交換会					

「ガイダンス&SGD」:病院・薬局見学では、教員からガイダンスを行った後、薬剤師の仕事について意見交換した上で、見学時の心構え、質問事項を整理した。企業見学前のSGDでは、一般的ガイダンスを行うとともに見学先について説明し(研究所、工場など)見学先の業務内容について意見交換した上で質問事項を整理した。

表1：「早期体験学習」のスケジュール

## 2. 授業概要

表1は、「早期体験学習」の全体スケジュールを示しています。

### 1) 全体ガイダンス

従来のガイダンス内容に、選択制の導入、企業見学、プロダクトの作成、意見交換会を盛り込み、説明しました。選択項目として、救命応急手当70名、ハンディキャップ体験40名、ようこそ先輩280名を目的に、アンケート用紙に第1希望～第3希望を記入してもらい、回収しました。希望者多数のため、抽選により選択項目を決定し、掲示により通知しました。2012年度は、総勢366名が受講しました。

### 2) 「薬害」に関する講演会

4月17日にT31講義室にて増山ゆかり氏による「サリドマイド事件とは～概要と教訓～」というテーマにてご講演を頂き、学生は真剣な眼差しで聴講しました。この講演に対するレポート提出と基礎演習担当教員（学生10名程度に教員1名）による添削を受けました。学生支援システムであるMoodleにより学生がWord書類でレポートを提出し、教員が添削後に主担当へ最終原稿を提出するという形式で行いました。学生は文書作成能力の基礎を学ぶため、熱心に取り組んでいました。学生からは、「貴重なお話を聴けた」、「薬害の怖さを知った」等の感想を頂きました。ご講演を頂きました増山ゆかり氏にあらためてお礼申し上げます。

### 3) ようこそ先輩

4月24日にT31講義室にて薬学部の学生としてこれから体験する事柄について先輩から学ぶということをおねらいとして、4年次生「学生生活関係（分野の話）」、5年次生「共用試験関係」、6年次生「長期

実務実習関係」、および大学院生「国家試験および大学院関係」の内容と1人20分程度の講演を実施しました。分野ごとの輪番制とした上で分野主任から適任者を推薦して頂きました。

2012年度は、4年次生の岡野綾華さん（代謝分析学分野）が「研究室での活動について」、5年次生の井上亜樹さん（病態生化学分野）が「京薬ライフにおける共用試験の位置づけ」、6年次生の松浦春花さん（健康科学分野）が「医療人から学ぶ一長期実務実習一」、大学院1年次生の大石晃弘さん（衛生化学分野）が「薬剤師国家試験に合格するには！+大学院進学について」と題して講演を行いました。学生は、メモを取りながら、先輩方の講演にしっかりと耳を傾けていました。学生は講演を聴講してのレポートをMoodleによりWord書類で提出しました。また、各講演のビデオを一定期間Moodle上に配信し、他項目を選択した学生も視聴できるようにしました。学生からは、「4名の先輩の話を開けて今後の勉強に役立つと思った」、「各学年で何を学んできたのかを具体的に教えてもらえたので参考になった」等の感想を頂きました。講演を頂いた先輩の学生方には感謝いたします。

### 4) 救命応急手当

4月24日にA33講義室にて人の命の尊さを理解するために救命応急手当を実践しました。心室細動の概要およびAED（自動体外式除細動器）の機能を理解するとともにAEDの使用法、基本的心肺蘇生法を習得しました。講習終了後、京都市消防局から普通救命講習終了証が交付されました。学生は、体験に関するレポートをMoodleによりWord書類で提出しました。学生からは、「AEDはこれまで学習したことがなく選択し、外出先で遭遇したらAEDをやってみる自信がついた」等の感想を頂きました。

#### 5) ハンディキャップ体験

4月24日に体育館および躬行館階段にて擬似体験を通じて医療人としてのやさしさ、思いやりについて考えるためにアイマスクおよび車椅子を用いたハンディキャップ体験を実践しました。視覚が不自由な方、歩行の不自由な方の擬似体験をし、声掛け、介助法等を習得しました。体験を通してバリアフリーについても概説できるようになりました。学生は、体験に関するレポートをMoodleによりWord書類で提出するとともに、PCや携帯電話を利用する調査・集計（リアルタイム評価支援）システム（REAS）のアンケートに回答しました。「外出先で視覚が不自由な方、歩行の不自由な方に遭遇したら声掛けを積極的に行っていきたい」等の感想を頂きました。

#### 6) 病院・薬局見学

5月15日～6月26日の期間に、病院薬剤師・開局薬剤師の業務を見聞することをねらいとして、病院15施設および薬局22施設の協力により病院・薬局見学を実施しました。病院・薬局見学を実施するにあたり見学の前週に注意事項の確認等ガイダンスを行った上で、学生60名程度に教員2名を配置し、病院・薬局見学ノートを利用してSGDを実施しました。SGDでは病院・薬局での薬剤師の役割や心構えについて討論し、見学時の質問項目をまとめました（写真1）。



写真1 病院・薬局見学のSGDの風景

見学終了後、学生は学習内容と感想を記述した報告書を提出しました。また、見学前と見学後のアンケートにも回答しました。病院・薬局見学では、「薬局の中に初めて入ることができ、薬剤師の役割等を知ることができた」、「病院では想像と違う色々な仕事があつて驚いた」等の感想を頂きました。ご協力頂いた病院、薬局の関係各位にあらためてお礼申し上げます。

#### 7) 研究室見学

5月1日～6月26日の期間に、研究の進め方や課題解決の方法の基礎を体験することをねらいとして、本学の21分野の協力により研究室見学を実施しました。学生はあらかじめ設定された1分野の研究室しか見学できない等の制約はあるものの、見学先の研究室の教員の説明に熱心に耳を傾け、それぞれの課題に熱心に取り組んでいました（写真2）。学生から

は、「研究室見学はおもしろく、興味がわいた」、「研究ノートを見せてもらい、もっと勉強しなくてはいけないと思った」等の感想を頂きました。ご協力頂いた各分野の関係各位にあらためてお礼申し上げます。



写真2 研究室見学の風景

#### 8) 企業見学

5月1日～7月3日の期間に、自分の将来・進路に対する事柄について学ぶことをねらいとして、本年度は小城製薬(株)、参天製薬(株)、塩野義製薬(株)、(株)島津製作所、武田薬品工業(株)、大日本住友製薬(株)、東和薬品(株)、日本新薬(株)およびバイエル薬品(株)の9企業(延べ14日)にご協力頂き、企業見学を実施しました。企業見学の前週に注意事項の確認等ガイダンスを行った上で、学生60名程度に教員2名を配置し、企業見学ノートを利用してSGDを実施しました。SGDでは製薬企業の役割や必要な心構えについて討論し、見学時の質問項目をまとめました（写真3）。



写真3 企業見学SGDの風景1

また、各授業時間の最後にグループの代表者による発表、質疑応答を行って意識を高めました。初めて人前で発表する学生はやや緊張した雰囲気、質問への回答も多少戸惑いながらもグループの仲間の助けを借りて精一杯取り組んでいました。



写真4 企業見学SGDの風景2

企業見学当日には、教員1名が点呼をとり、1施設1回（学生20～40名程度）に原則引率教員1名を配置しました。学生は、体験に関するレポートをMoodleによりWord書類で提出するとともに、PCや携帯電話を利用する調査・集計システムのアンケートに回答しました。学生からは、「企業の仕事についてSGDで少し勉強してから行ったので理解しやすかった」、「見学先では質問に対して丁寧に回答してもらえた」等の感想を頂きました。ご協力頂いた各企業並びに関係各位に深く感謝申し上げます。

#### 9) プロダクト作成

6月19日～7月3日の期間に、プレゼンテーション能力向上のための基礎を学ぶことをねらいとして、学習内容の中から題材を選んでプロダクトを作成しました。プロダクトは、病院・薬局あるいは企業のいずれか一方あるいは両方とも含めるかはグループの話し合いで決定しました。また、模造紙による手書き、あるいはA3/A4用紙に出力したポスターのいずれかもグループの話し合いで決定しました。また、プロダクト作成には写真掲載を認めました。プロダクト作成（学生60名程度）に教員1名を配置し、プロダクト作成の助言を行いました。学生たちはそれぞれ意見を出し合い、役割分担をしながらプロダクト作成に取り組みました（写真5）。



写真5 プロダクト作成の風景

#### 10) プロダクト展示・意見交換会

7月10日に体育館にて、ボードを利用して全40件のプロダクト展示による意見交換会を実施しました。プロダクト展示・意見交換会には教員が可能な限り参加し、班ごとの展示を閲覧した上で、適宜質疑応答を促す等の助言を行いました（写真6）。



写真6 プロダクト展示・意見交換会の風景

学生からは、「先生方が何人も来られたので担当の時間を決めて対応した」、「他の班をまわって質問したり、ディスカッションできた」等の感想を頂きました。また、1年次全学生および教員の投票により4件の優秀賞を選出しました。優秀賞は次の通りで、愛学館1F・学生ホールに展示し、学内に広く公表しました。

#### 優秀賞（グループ番号順）

グループNo	テーマ（タイトル）	学生番号
8	いざ 京都の病院へ	12065～12071
20	武田にしやがれ！	12181～12190
37	SONG for You	12351～12358
38	病院薬剤師の1日	12359～12366



写真7 4件の優秀賞

#### 3. おわりに

早期体験学習（1年次科目）は、種々の体験を通じて医療人としての薬剤師の喜び、理想像を思い描き、今後の研鑽の糧とすることを目的としています。本年度から、より幅広い体験ができるように、また、体験のみならず学生同士で議論しあう機会を多く設けるように内容を見直しました。学習項目として、ようこそ先輩、企業見学（以上、本年度から新規）、薬害被害者講演、救命応急手当、ハンディキャップ体験、病院・薬局見学、学内研究室見学を行ったところ、学生たちは色々体感したようで、今後の勉学に参考となったとの意見を受けました。また、企業見学または病院・薬局見学のいずれかをテーマに、学生同士で議論し見学内容をまとめたプロダクトを作成し、それらの展示と意見交換会を開催しました。そして、1年次全学生および教員の投票により4件の優秀賞を選出しました。今年の結果を踏まえ、さらに充実した早期体験学習が実施できるように進めていきたいと考えています。

注) SGD: Small Group Discussion  
PBL: Problem Based Learning

## 2012年度 総合薬学研究・総合薬学演習 卒業論文発表会

教務部長

2012年6月25日（月）～27日（水）下記スケジュールにより、体育館において6年次生の卒業論文発表会（ポスター発表形式）を開催いたしました。

今年度は、同じ時間帯に発表する学生同士でもお互いの発表を見ることができるように、各時間帯を45分ずつに分けて交代で進行しました。会場には、分野に所属する学生だけでなく先生方や後期から配

属される3年次生からも多数の来場があり、活気ある発表会となりました。特に後輩の皆さんにとっては、活発な質疑応答が飛び交う先輩方の発表を聞き、今後の研究活動の参考となったようです。

また6月下旬の体育館は暑さが心配されましたが、開催日3日間は比較的過ごしやすい天候となり無事終了することができました。

### 《スケジュール》

日時	系	分野	人数
6/25（月） 14：00～15：30	分析薬科学	薬品分析 代謝分析 薬品物理化学	42名
6/25（月） 16：00～17：30	生命薬科学	衛生化学 衆衛生 微生物感染制御学 化学病態生理	90名
6/26（火） 14：00～15：30	病態薬科学	病態生化学 薬物治療 臨床薬理学 臨床腫瘍学	83名
6/26（水） 16：00～17：30	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学	91名
	基礎科学系	健康科学、物理学	
	薬学教育系	臨床薬学教育 情報処理教育研究センター	
6/27（水） 14：00～15：30	創薬科学系	薬化学 薬品製造 薬品化学 薬学	49名
		附属施設	



発表会の様子

# 第4回学生満足度調査 集計結果報告

学生満足度調査プロジェクトチーム

本学では2009年度から、2～6年次生までを対象とした「学生満足度調査」を実施しています。2012年度の調査では696名の学生の皆さんに調査にご協力いただきました。勉強やクラブ活動が忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

学生の皆さんから寄せられた声は本学の全職員で共有し、今後の教育・研究等の改善に役立てていきたいと考えています。今後も皆さんの声をお寄せ下さい。

なお、全学的な取組として改善が必要な項目につきましては、大学の第2期中期計画に盛り込み、改善に取り組みます。改善結果については追って報告いたします。

<学生満足度調査の実施概要について>

- (1) 実施対象について  
学部2～6年次生
- (2) 記名・無記名について  
無記名方式
- (3) アンケート配付期間について  
2012年5月7日（月）～9日（水）  
※5・6年次生は各分野にアンケート用紙を配付
- (4) アンケート回収期間について  
2012年5月18日（金）まで
- (5) 回収数  
696部

<学生満足度調査結果>

(1) はじめに

①性別

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	男性	192	27.6%	194	173
(2)	女性	500	71.8%	533	466
	無回答	4	0.6%	2	6
	計	696	100.0%	729	645

②学年

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	2年次	203	29.2%	235	243
(2)	3年次	170	24.4%	155	145
(3)	4年次	133	19.1%	118	133
(4)	5年次	91	13.1%	127	119
(5)	6年次	95	13.6%	93	0
	無回答	4	0.6%	1	5
	計	696	100.0%	729	645

③通学形態

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	自宅通学	432	62.1%	448	412
(2)	自宅外通学（下宿）	259	37.2%	279	228
	無回答	5	0.7%	2	5
	計	696	100.0%	729	645

④通学手段

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	電車通学	441	63.4%	458	415
(2)	自転車通学	113	16.2%	143	115
(3)	バイク通学	6	0.9%	4	3
(4)	徒歩	130	18.7%	119	106
(5)	その他	1	0.1%	1	1
	無回答	5	0.7%	4	5
	計	696	100.0%	729	645

(2) 京都薬科大学の魅力

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	伝統があり、多くの卒業生を輩出している	425	27.4%	430	370
(2)	学力水準が高く、知名度が高い	211	13.6%	251	249
(3)	高い研究力	95	6.1%	78	84
(4)	最先端の薬学教育を受けることができる	51	3.3%	47	51
(5)	施設や設備が充実している	163	10.5%	146	131
(6)	高い就職率	119	7.7%	89	119
(7)	立地条件が良い	237	15.3%	234	223
(8)	京都の街	211	13.6%	254	195
(9)	その他(下記自由記述欄に記入して下さい)	15	1.0%	14	15
	無回答	26	1.7%	21	26
	計	1553	100.0%	1564	1463

(3) 京都薬科大学の教育・研究

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2012年度平均点	2011年度平均点	2010年度平均点
Q7-1	シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	91	485	83	18	19	696	3.0	2.9	2.9
Q7-2	1コマ90分の授業は長すぎ	72	185	307	118	14	696	2.3	2.3	2.4
Q7-3	教養科目(人と文化)は充実している	41	285	256	99	15	696	2.4	2.3	2.5
Q7-4	基礎演習では、少人数制の良さが感じられた	135	406	107	33	15	696	2.9	3.0	3.0
Q7-5	早期体験学習のプログラムは充実している	83	375	184	38	16	696	2.7	2.8	2.8
Q7-6	1年次の補講(物理学、生物学、数学)は充実している	94	370	154	58	20	696	2.7	2.7	2.7
Q7-7	外国語教育は充実している	40	238	263	142	13	696	2.3	2.2	2.3
Q7-8	進級条件は理解できている	216	378	69	19	14	696	3.2	3.1	3.1
Q7-9	授業に関すること、呼び出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	127	401	122	28	18	696	2.9	2.9	2.9
Q7-10	専門科目には満足している	38	224	39	10	8	319	2.9	2.9	2.8
Q7-11	専門科目実習には満足している	39	213	50	8	9	319	2.9	2.9	2.8
Q7-12	総合薬学研究・演習の分野配属の方法は適当である	58	178	53	22	8	319	2.9	2.7	2.7
Q7-13	総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる	88	158	51	15	7	319	3.0	2.9	3.0
Q7-14	総合薬学研究・演習の定員は適切である	54	166	59	33	7	319	2.8	2.6	2.6
Q7-15	研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	74	147	66	23	9	319	2.9	2.8	2.8
Q7-16	病院・薬局実習の実習先配属の決定は希望通りであった	54	108	43	35	79	319	2.8	2.8	2.7

(4) 京都薬科大学の学生サポート

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2012年度平均点	2011年度平均点	2010年度平均点
Q9-1	学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	239	371	59	9	18	696	3.2	3.2	3.2
Q9-2	クラブ活動に対して十分な資金援助が行われている	68	347	164	67	50	696	2.6	2.6	2.7
Q9-3	クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	62	352	158	79	45	696	2.6	2.5	2.6
Q9-4	奨学金制度は充実している	65	387	154	45	45	696	2.7	2.7	2.8
Q9-5	困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	43	196	268	172	17	696	2.2	2.1	2.3
Q9-6	困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	31	173	307	165	20	696	2.1	2.1	2.3
Q9-7	各種証明書発行日数には満足している	65	407	147	46	31	696	2.7	2.7	2.7
Q9-8	下宿先の紹介制度が充実している	19	278	240	89	70	696	2.4	2.3	2.6

(5) 京都薬科大学の施設・設備

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2012年度平均点	2011年度平均点	2010年度平均点
Q11-1-A	施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	172	405	90	12	17	696	3.1	3.1	3.0
Q11-1-B	施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	145	437	87	7	20	696	3.1	3.1	3.1
Q11-1-C	施設・設備が充実している 自習室	107	341	178	47	23	696	2.8	2.8	2.9
Q11-1-D	施設・設備が充実している 駐輪場	113	383	97	51	52	696	2.9	2.8	2.6
Q11-1-E	施設・設備が充実している ロッカー室	86	346	182	63	19	696	2.7	2.6	2.5
Q11-1-F	施設・設備が充実している 掲示板	82	413	131	52	18	696	2.8	2.7	2.7
Q11-1-G	施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	147	413	98	19	19	696	3.0	3.0	3.1
Q11-2-1-A	食堂施設が充実している(愛学館—メニュー)	96	324	183	72	21	696	2.7	-	-
Q11-2-1-B	食堂施設が充実している(愛学館—価格)	87	325	184	78	22	696	2.6	-	-
Q11-2-1-C	食堂施設が充実している(愛学館—利用環境)	35	183	275	183	20	696	2.1	-	-
Q11-2-2-A	食堂施設が充実している(躬行館—メニュー)	49	294	222	106	25	696	2.4	-	-
Q11-2-2-B	食堂施設が充実している(躬行館—価格)	55	279	223	115	24	696	2.4	-	-
Q11-2-2-C	食堂施設が充実している(躬行館—利用環境)	33	206	256	175	26	696	2.1	-	-
Q11-3	図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービスも含む)	131	379	135	27	24	696	2.9	3.0	3.1
Q11-4	文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	94	357	171	52	22	696	2.7	2.7	2.8
Q11-5	憩いのスペースが充実している	83	327	193	68	25	696	2.6	2.7	2.5
Q11-6-A	安全・衛生管理が行き届いている セキュリティ	149	429	80	16	22	696	3.1	3.0	3.1
Q11-6-B	安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	157	430	73	13	23	696	3.1	3.0	3.0
Q11-6-C	安全・衛生管理が行き届いている 清掃	271	375	27	3	20	696	3.4	3.4	3.3

## (6) 京都薬科大学の進路支援

No	質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2012年度平均点	2011年度平均点	2010年度平均点
Q13-1	進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	41	78	144	401	32	696	1.6	1.5	1.6
Q13-2	進路支援課購読の資料室を利用したことがある	38	86	135	413	24	696	1.6	1.5	1.6
Q13-3	「早期体験学習」「薬学への招待」は、進路を考えるうえで参考になった	35	260	223	149	29	696	2.3	2.2	2.5
Q13-4	進路ガイダンスの内容はわかりやすい	30	264	137	37	21	489	2.6	2.6	2.7
Q13-5	進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	29	248	147	43	22	489	2.6	2.5	2.6
Q13-6	2年次のガイダンス「職種説明」は、進路を考えるうえで参考になった	21	188	174	81	25	489	2.3	2.3	2.6
Q13-7	3年次のガイダンスは、進路を考えるうえで参考になった	22	120	118	44	15	319	2.4	2.5	2.6
Q13-8	4年次のガイダンス「職種説明会」は、進路を考える上で参考になった	21	97	39	18	11	186	2.7	2.7	2.7
Q13-9	5年次で受講した「進路支援セミナー」「GD対策セミナー」は参考になった	17	43	19	12	5	96	2.7	2.7	-
Q13-10-1	相談後に問題は解決した。参考になった	45	51	12	3	8	119	3.2	3.0	2.9
Q13-10-2	回答内容はわかりやすかった	44	53	10	2	10	119	3.3	2.9	2.9

## (7) 総合評価

No	回答	回答数	構成比	2011年度	2010年度
(1)	1. まったく満足していない	5	0.7%	13	6
(2)	2	15	2.2%	24	21
(3)	3	32	4.6%	39	32
(4)	4	26	3.7%	39	39
(5)	5. どちらとも言えない	94	13.5%	83	80
(6)	6	109	15.7%	124	112
(7)	7	165	23.7%	189	176
(8)	8	148	21.3%	160	128
(9)	9	32	4.6%	31	25
(10)	10. 非常に満足している	9	1.3%	6	5
	無回答	61	8.8%	21	21
	計	696	100.0%	729	645

<b>平均点</b> : <b>6.4</b>
-------------------------

※2011年度調査時の平均点は6.3点  
2010年度調査時の平均点は6.3点

<b>2012年度大学説明会の学外開催の結果について</b>
--------------------------------

今年度で3年目を迎える学外での大学説明会を、8月25日（土）鳥取会場（米子コンベンションセンター）、8月26日（日）岡山会場（オルガビル）・三重会場（じばさん三重）、9月1日（土）広島会場（RCC文化センター）、9月2日（日）福井会場（フェニックスプラザ）・愛媛会場（松山市総合コミュニティセンター）の6会場で開催しました。大学説明会の内容（時間）は、受付（13：30～16：00）、大学紹介（14：00～14：50）、相談会（15：00～16：30）で、合計61名の参加者がありました。今年度は、新たに鳥取会場および福井会場を設け、山陰および北陸地域で初めて大学説明会を開催しました。開催地在住の方以外に、遠方からも数名の参加者があり、また、本学のオープンキャンパスに参加し、さらに今回の大学説明会に参加された方もおられ、本学に対する関心の高さがうかがえました。

日程	開催地 (都道府県)	高校1年生	高校2年生	高校3年生	予備校生	その他	ご父母等	合計
8月25日(土)	米子 (鳥取県)	0名	1名	2名	0名	0名	9名	12名
8月26日(日)	岡山 (岡山県)	0名	1名	3名	1名	0名	7名	12名
8月26日(日)	四日市 (三重県)	0名	0名	4名	0名	1名	7名	12名
9月1日(土)	広島 (広島県)	0名	2名	4名	1名	0名	7名	14名
9月2日(日)	福井 (福井県)	0名	1名	0名	0名	0名	3名	4名
9月2日(日)	松山 (愛媛県)	0名	0名	3名	0名	0名	4名	7名
合計		0名	5名	16名	2名	1名	37名	61名



広島会場の様子

## 2012年度 6月、8月のオープンキャンパス開催

入試課

### ～ 6月のオープンキャンパス ～

6月10日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

受験生、ご父母等を合わせて296名（前年比：174.1%）の参加者がありました。躬行館T31講義室を会場とし、「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生会の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長挨拶」では、乾学長から「輝ける薬学の近未来」というテーマで、本学の目指すファーマシスト・サイエンティストの育成について話をいただきました。「大学紹介」では、小暮入試広報委員長から、わかりやすく本学の説明が行われました。

「在学生会の話」では、6年次生 本波香織さんに実習、研究室、アルバイト等の体験に基づいた大学生活全般の話をしていただきました。「卒業生の話」では、神戸市立医療センターに勤務されている北田徳昭先生に本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をいただきました。

「在学生会の話」、「卒業生の話」ともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館、臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。躬行館食堂で実施した「相談会」には、135名（前年比：131.0%）の相談者があり、入学試験や学生生活、就職などの相談がありました。

### ～ 8月のオープンキャンパス ～

8月4日（土）・5日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日もとも猛暑となりましたが、1,416名（前年比：126.4%）の参加者がありました。

これは薬学6年制開始以降最高の人数です。躬行館T31講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生会の話」の後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を実施しました。以前のアンケートから「在学生会の話」が聞きたいという意見も多くあり、今回より新しく「在学生会の話」を北尾哲也さん（8/4）、光枝亜佐子さん（8/5）（共に6年次生）に実施してもらい、好評でした。

参加者からは、大学紹介について「大学の方針や理念がよく分かった」、在学生会の話については、「学生の視点からの研究や生活面が良くわかった」、体験実習については、「貴重な体験ができて良かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、「すばらしい施設が整ってい

た」などの声が多く聞かれました。

相談会は、躬行館食堂で実施しました。両日合計394名（前年比：121.9%）の相談者があり、教育職員、事務職員、在学生会が相談に応じました。参加者からは、「親身に答えてくれた」、「在学生会と話せて良かった」などの感想をいただきました。

関係者の皆様には、ご多忙中、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



学長挨拶



施設見学



体験実習



相談会

## 2012年度 8月のオープンキャンパス集計結果 (受験生・高校生)

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？ (複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット (本学のホームページ)	329	59.7
2	高校の進路指導または資料	122	22.1
3	オープンキャンパスのチラシ・DM	95	17.2
4	家族または親戚	73	13.2
5	先輩・友人・知人	64	11.6
6	予備校	13	2.4
7	その他	10	1.8
8	新聞	4	0.7
9	受験雑誌など	3	0.5
10	無回答	3	0.5

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？ (複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	409	74.2
2	実験・研究などの施設・設備の確認	272	49.4
3	入試情報の確認	232	42.1
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	174	31.6
5	授業内容の確認	137	24.9
6	研究内容の確認	132	24.0
7	就職状況や進路指導の確認	116	21.1
8	薬剤師国家試験対策についての確認	110	20.0
9	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	106	19.2
10	薬学6年制の確認	98	17.8
11	クラブ・サークル活動などの確認	80	14.5
12	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	66	12.0
13	病院・保険薬局実務実習の確認	65	11.8
14	在学生の確認やコミュニケーション	42	7.6
15	学生相談・サポート体制の確認	24	4.4
16	教育職員及び事務職員の確認や相談	18	3.3
17	その他	8	1.5
18	無回答	8	1.5

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？ (複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	検討中	218	39.6
2	推薦入試	193	35.0
3	B方式 (本学独自)	193	35.0
4	A方式 (センター前期)	134	24.3
5	C方式 (センター後期)	35	6.4
6	無回答	25	4.5

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？ (全体)

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	303	55.0
2	まあ良かった	191	34.6
3	あまり良くなかった	1	0.2
4	全く良くなかった	1	0.2
5	無回答	55	10.0
合計		551	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	238	43.2
2	少し受験意欲が高まった	232	42.1
3	変わらなかった	57	10.4
4	少し受験意欲が減退した	3	0.5
5	かなり受験意欲が減退した	1	0.2
6	無回答	20	3.6
合計		551	100.0

## 2012年度 6月、8月のオープンキャンパス参加人数

2012年6月のオープンキャンパス

	受験生	ご父母等	合計
6月10日 (日)	191名	105名	296名
昨年度	114名	56名	170名

2012年8月のオープンキャンパス

	受験生	ご父母等	合計	昨年度
8月4日 (土) 午前	284名	160名	444名	364名
午後	117名	70名	187名	156名
小計	401名	230名	631名	520名
8月5日 (日) 午前	353名	216名	569名	422名
午後	142名	74名	216名	178名
小計	495名	290名	785名	600名
合計	896名	520名	1,416名	1,120名
昨年度	731名	389名	1,120名	

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立  
キックオフシンポジウム 報告書

2012年6月29日（金）、京都薬科大学・愛学館 A31講義室（愛学ホール）において「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」キックオフシンポジウムを開催いたしました。開会に際して乾 賢一学長からご挨拶があり、本プロジェクトの意義や目指すべき目標について述べられました。

まず、イントロダクションとして、本プロジェクトの研究代表者である安井 裕之教授が、メタロミクスの黎明から現状について紹介され、本プロジェクトにおける位置づけと薬学への展開について講演されました。その後は、班ごとに諸先生方からこれまでの研究内容のまとめと今後展開される予定の計画研究について講演頂きました。

最初のセッションとして、最近大きな注目を集めている中枢疾患とバイオメタルの関係（ニューロメタルと呼ばれている）を研究される第2班の3名の先生方「石原 慶一講師、高田 和幸助教、松尾 剛明助教」からご発表を頂きました。石原講師はダウン症、高田助教はアルツハイマー病とパーキンソン病、松尾助教はアストロサイトや脳内の情報伝達について、バイオメタルとの関連性を含めて講演されました。

その次のセッションとして、疾患メタロミクス（疾患とバイオメタル）を研究される第1班の4名の先生方「小原 幸准教授、辻本 雅之講師、藤井 正徳助教、天ヶ瀬紀久子助教」の中から小原准教授（心臓疾患とバイオメタル）と辻本講師（腎臓疾患とバイオメタル）にご発表を頂きました（藤井助教と天ヶ瀬助教は薬理学会近畿支部総会にご出席）。

最後のセッションとして、バイオメタルの体内動態・デリバリーシステムを研究される第3班の2名の先生方「坂根 稔康准教授、吉川 豊講師」からご発表を頂きました。坂根准教授は、亜鉛からリチウムやマグネシウムまでの体内動態解析について、吉川講師は総括を兼ねて微量金属の精密定量分析の重要性について講演されました。

閉会に際して、研究代表者の安井教授からご挨拶があり、今回採択された5年間の戦略基盤研究は大学の若手教員による研究プロジェクトとして捉え、各班の構成員が協力して自身の研究と学内外の共同研究の両方を押し進めていくことを強調されました。

6年次生の卒業研究発表会が3日間開催された週の金曜日午後ではありましたが、多くの先生方、大学院生、学生諸君にご参加頂きました。この場をお借りして、多大なご協力に感謝申し上げます。

## 1. シンポジウム概要

日時：2012年6月29日（金） 13：30～16：00  
場所：京都薬科大学・愛学館 A31講義室（愛学ホール）

### 【プログラム】

戦略基盤キックオフシンポジウムの開催に当たって（司会：安井 裕之 教授）

13：30～13：35 「学長挨拶」  
乾 賢一 京都薬科大学長

イントロダクション（座長：石原 慶一 講師）  
13：35～13：50 「メタロミクス研究の潮流と薬学への展開」  
代謝分析学分野（研究代表者） 安井 裕之 教授

中枢疾患とバイオメタル（座長：安井 裕之 教授）  
13：50～14：05 「ダウン症モデルマウスを用いた病態解析」  
病態生化学分野 石原 慶一 講師

14：05～14：20 「アルツハイマー病研究とバイオメタル」  
病態生理学分野 高田 和幸 助教

14：20～14：35 「バイオメタルとしての亜鉛による脳神経系情報伝達機構の解明」  
衛生化学分野 松尾 剛明 助教

疾患メタロミクス (疾患とバイオメタル) (座長: 坂根 稔康 准教授)

14:50~15:05 「心不全と酸化ストレス、バイオメタルの関与」

臨床薬理学分野 小原 幸 准教授

15:05~15:20 「末期腎不全患者の体内動態擾乱因子」

臨床薬学分野 辻本 雅之 講師

バイオメタルの体内動態・デリバリーシステム (座長: 小原 幸 准教授)

15:20~15:35 「亜鉛の吸収と体内動態」

薬剤学分野 坂根 稔康 准教授

15:35~15:50 「生活習慣病治療を目指した金属イオン・金属錯体の探索研究」

代謝分析学分野 吉川 豊 講師

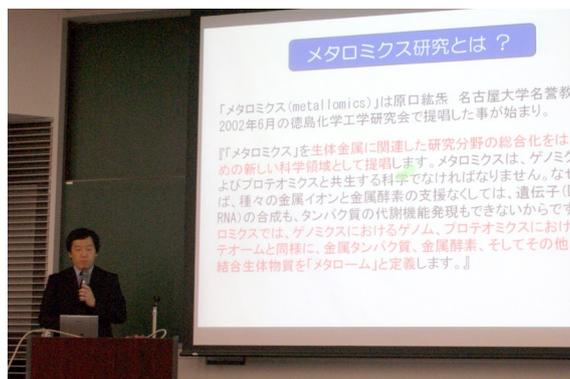
閉会の挨拶 代謝分析学分野 (研究代表者) 安井 裕之 教授



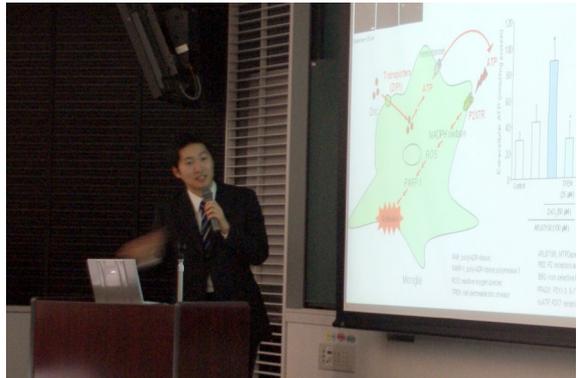
開会にあたって(安井 裕之 研究代表者)



開会の挨拶(乾 賢一 学長)



イントロダクション(安井 裕之 教授)



中枢疾患とバイオメタル(石原 慶一 講師、高田 和幸 助教、松尾 剛明 助教)



疾患メタロキス(小原 幸 准教授、辻本 雅之 講師)



バイオメタルの体内動態・デリバリーシステム(坂根 稔康 准教授、吉川 豊 講師)

## リモートアクセスサービスを開始しました

京都薬科大学が契約している電子リソース（データベース・電子ジャーナル・電子ブック）が、自宅や出張先など学外から利用できる「リモートアクセス」のサービスを開始しました。

## 【リモートアクセス利用手順】

1. 図書館ホームページ (<http://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>) にアクセスする
2. マイライブラリにログインする（IDとパスワードは学内メールと同じです）
3. メニュー「図書館からのお知らせ」にある「リモートアクセスの使い方」をクリックする

## 【利用上の注意】

- ・利用できるのは京都薬科大学の構成員のみです。また、IDとパスワードの他者への貸与・譲与は禁止されています。
- ・契約の都合上、一部リモートアクセスでは利用できない電子ジャーナル・データベースがあります。
- ・電子リソースは、「リモートアクセスの使い方」の■**利用上の注意**をよく読み、正しくご利用ください。

大量のダウンロードやプリントアウト、個人利用以外の目的で利用すること、複製配布などは絶対に行わないでください。不正な利用が行われた場合、大学全体の利用が停止される可能性があります。

## NACSIS WebcatからCiNii Booksへ

国立情報学研究所が提供している NACSIS Webcat が2013年3月で終了することになり、後継として、検索機能を強化した CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books/>) が公開されました。

これに伴い、図書館ホームページ内のNACSIS WebcatへのリンクをCiNii Booksへと変更しました。

## ■CiNii Booksとは

全国の大学図書館等が所蔵する本（図書や雑誌等）の情報を検索できるサービスです。全国の大学図書館等約1,200館が所蔵する、約1,000万件（のべ1億冊以上）の本の情報や、約150万件の著者の情報を検索することができます。

## ■CiNii Booksの主な特徴

- ・基本機能はNACSIS Webcatを引き継いでいる
- ・所蔵情報からの検索が可能である（特定の地域や図書館に絞り込んだ検索も可能）
- ・各大学図書館のOPACへ直接リンクしている

## 開館日程

2012年 10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2012年 11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2012年 12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

休館
  9:00-20:00
  9:00-17:00
  10:00-17:00
  休館=館内整備

## 2012年度京都薬科大学給付型奨学生

本学は学生の修学支援を強化するため、従来からの貸与型奨学金に加え、2010年度から、給付型奨学金および授業料減免型奨学金制度を創設しました。

給付型奨学金は、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図るため、成績優秀者に対して奨学金を給付するものです。今年度の給付型奨学生対象者は、入学成績が特に優秀であった学部新入生10名・大学院新入生3名及び2年次生から5年次生については前年度の成績、6年次生については1～5年次の総合成績が特に優秀であった各学年10名、合計50名が選考され奨学金が支給されました。また、表彰式が6月18日に愛学館第1会議室において行われ武田理事長から表彰状が授与されました。

また、授業料減免型奨学金は、経済的な事情から修学困難に陥った学生に対する緊急支援として授業料を減免するもので、本年前期対象者として2名、後期対象者として5名が選考されています。

2008年12月から学生の修学支援のために募集を開始した奨学寄附金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、教育後援会会員等の皆様から、ご寄附を頂戴しております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続いての資金的なご支援よろしく願いいたします。

### 学部新入生

1年次 安藤 紗綾  
 1年次 大谷 拓也  
 1年次 日下部早希  
 1年次 新谷 朋子  
 1年次 杉浦 真優  
 1年次 寺澤 杏子  
 1年次 中家 晃佑  
 1年次 西舩 文香  
 1年次 林 亜希子  
 1年次 山田 千草

### 大学院新入生

1年次 地寄 悠吾  
 1年次 戸田 侑紀  
 1年次 板倉 祥子

### 学部在学学生

2年次 稲垣 恵未	5年次 岡田麻友子
2年次 入江 裕子	5年次 加藤さつき
2年次 川上 光	5年次 加藤 夢可
2年次 小山菜々子	5年次 河野 大貴
2年次 富永 南	5年次 河原奈津美
2年次 中尾佳那美	5年次 成岡 里紗
2年次 西 貴之	5年次 林 香織
2年次 橋本みさき	5年次 三宅 佑美
2年次 藤原麻紀子	5年次 村田 梨香
2年次 吉田 健吾	6年次 浅井由紀子
3年次 赤谷 祥子	6年次 乾 尚之
3年次 今井 梓嗟	6年次 植田 裕美
3年次 岩貞 有紀	6年次 岡田ゆうみ
3年次 上野 貴紀	6年次 杉原佳奈子
3年次 大前 敬子	6年次 丹治 里奈
3年次 鈴木 智子	6年次 前田 智美
3年次 辻 栞	6年次 森島 史佳
3年次 辻村 真里	6年次 森南沙那恵
3年次 内藤 千尋	6年次 安原 亜希
3年次 福田 浩紀	
4年次 齋藤 真奈	
4年次 池上 倫代	
4年次 井田安紀子	
4年次 岡崎 秀太	
4年次 岡田 真沙	
4年次 岸 一俊	
4年次 金高こころ	
4年次 藤堂 未央	
4年次 長戸 優也	
4年次 古田 早紀	
5年次 芥田賀奈子	



表彰状授与の様様



学部新入生および在学生



大学院生

## 「卒業生からのメッセージ」

### 如何に基礎を適用するか



#### 栗飯原 永太郎

2003年 学部卒業

2008年 博士後期課程修了  
(薬物治療学分野)

University of Cincinnati  
Department of Molecular &  
Cellular Physiology  
Research Scientist

博士後期課程修了とともに渡米してから早4年、ポスドクを経て現在はシンシナティ大学医学部研究職員として消化管の基礎研究を行っております。

私の今があるのは、大学時代の研究室(竹内孝治教授)での経験があったからだといっても過言ではありません。研究室では毎日の研究はもちろんのこと、年に10回以上も国内外の学会に参加させて頂き、将来研究者としてやっていけるだけの土台の形成ができました。特に国際学会では英語を使わなければなりません。私にとってそれまで英語は話すものではなく、テストのために覚えて書くだけのものでした。私はTOEICやTOEFLを受けた経験もなく、また英会話教室に通った経験もありますが、長い教育課程でみなさん同様、英語の基礎自体はできており、

後は如何に発声するかです。これは普段、他国語で会話をする必要がない日本国では難しいことですが、国際学会への参加を積み重ねるにつれ、自ずと汚い英語でしたが、話せるようになっていきました。要は基礎があつての慣れなのです。

研究に関しても然り、すべては白紙から始まり、大学院5年間での毎日の積み重ねが私の地盤を築き上げ、現在でもそれに助けられることが多々あります。アメリカにおいても実験の手法は日本でのものとほぼ変わりありません。勿論、今の時代、新しいことが毎日の様に発見され、環境が変わっている様にも見えますが、それらもまた基礎があつて応用されたものです。実際、英文誌に報告されている最新の論文中には、1980年代以前に発表された論文が多く引用されています。言い換えれば基礎(教科書等)は先人が成し遂げた成果であり、99%不動のものです。これを如何に使用するかは自分次第です。

社会にでると以前得た情報、すなわち大学の講義で習得したものが必ず役立つ日が来ます。学生の皆さん、大学時代にしっかりと薬学の基礎を身につけて下さい。更に応用編となる実習を通して、教科書外の課題にも意欲的に取り組み、その中で探究心を育んで下さい。何でも疑問を抱いた時には納得がいくまで調べ、理解するよう努めていると、自ずと考察する力が得られます。学生時代のこうした積み重ねは、将来現場において皆さんに自信を与えてくれます。皆さんの未来に栄光あれ。

**2013年度大学院薬学専攻博士課程及び  
薬科学専攻博士前期・後期課程  
入学選考結果**

2013年度大学院薬学専攻博士課程及び薬科学専攻博士前期・後期課程入学選考を8月24日（金）に実施し8月31日（金）に合格発表を行いました。

2013年度薬学専攻博士課程の志願者は5名、合格者は5名でした。薬科学専攻博士前期課程の志願者は3名、合格者は3名でした。薬科学専攻博士後期課程の志願者は1名、合格者は1名でした。

○2013年度薬学専攻博士課程の合格者数等

志願者数	5名
受験者数	5名
合格者数	5名

○2013年度薬科学専攻博士前期課程の合格者数等

志願者数	3名
受験者数	3名
合格者数	3名

○2013年度薬科学専攻博士後期課程の合格者数等

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

**クラブだより**

**ソフトテニス部**

僕たちソフトテニス部は、南校舎にあるテニスコートで日々練習に励んでいます。

先輩方が残されてきた大会の成績を守りつつ、部員には初心者も多いので、ソフトテニスが初めてという人にも基礎から丁寧に教えています。

また、先輩方やOBさんOGさんとテニスをするイベントもあり、人間関係の輪を広げることもできます。

最後に顧問の奈邊先生や卒業された先輩方のご支援に感謝し、これからもご指導のほどよろしくお願ひします。

**硬式庭球部**

関西薬学連盟硬式庭球大会では、男子団体戦2010年準優勝、2011年優勝し、男女共に個人入賞者を例年輩出しています。2011年は男子個人優勝者も出ています。

楽しんでテニスをするを一番のモットーとしています。

グリップの握り方など、基礎からなんでも教えていますので、経験者に限らず、初めての方も大歓迎です。

**卓球部**

**【春の四薬の戦績】**

男子団体戦	ベスト4
女子団体戦	ベスト4
男子シングルス	福田 ベスト4
女子シングルス	岸本 優勝 曹 ベスト8
女子ダブルス	岸本・村上由希子ペア 優勝

**【OB会】**

2012年10月28日（日）

**京都薬科大学「京薬論集刊行会」主催  
第10回文化講演会のお知らせ**

日 時：11月4日（日） 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 躬行館2階 Q21講義室

講演者：秋澤 雅男 氏

（京都薬科大学

基礎科学系一般教育分野 教授）

演 題：「nature(自然・本性)をめぐる哲学的?散歩  
-『自然に帰れ』、  
それとも『本性に帰れ』? -」

講演者：寺前 浄因 師

（岡林院・月真院住職、高台寺執事）

演 題：「科学の時代だからこそ仏教しよう  
-ZENの世界から見えること-」

今年で10回目の講演会となります。聴講無料です。是非、ご来場下さい。

当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみ下さい。

## 漢方医学研究部

去る6月29日（金）～7月1日（日）に国立京都国際会館で第63回日本東洋医学会学術総会が開催されました。比較的規模の大きな学術総会で、今回は3,400名余の参加がありました。今回初めて企画された学生発表部門にて本学の漢方医学研究部部長の森本さんによる発表がありました。発表演題は「抑肝散と釣藤鈎」で、最近、認知症の周辺症状に有効とされ、処方数が著しく増えている抑肝散とその構成生薬として重要な釣藤鈎に関する調査研究です。2～3年次の現役部員9名が数多くの実験薬理学的な原著論文を読んで作用機序や有効成分についてまとめたものです。専門家が集まる学会で、未だ漢方医学も薬理学も習っていない部員が四苦八苦して論文内容をまとめ上げ、今後研究すべき課題まで提案できたことは高く評価できます。さらに、発表後の交流会において、医学部の学生とも交流を深めることができたとのことでした。部員にとっても良い経験になったことと思います。今後も漢方医学研究部の名に恥じない部員の活躍に期待します。

第63回日本東洋医学会学術総会実行委員会  
実行委員 生薬学分野 松田久司



発表中の森本真未さん



発表ポスターの前にて

## マンドリン部

私達は毎年10月の定期演奏会に向けて、日々楽しく練習しています。

去年10月23日には第83回定期演奏会を行い、たくさんの方にご来場いただき無事に終えることができました。

今年10月20日には、第84回定期演奏会を行います。

〈京都薬科大学マンドリンクラブ第84回定期演奏会〉  
2012年10月20日（土）

場所：京都市西文化会館ウエスティ

開場：18:00

開演：18:30

曲目：組曲「エジプトの幻影」

（ジュリオ・デ・ミケーリ）

喜歌劇「こうもり」序曲

（ヨハン・シュトラウス）

杜の鼓動 第3楽章 街の灯（丸本大悟）

他

入場無料

ぜひご来場ください。

その他には、他大学との合同演奏会や京菓祭のステージで演奏したり、毎年管弦楽部と交代で入学式・卒業式の祝奏もさせていただいています。詳しくはHPをご覧ください。

<http://kyoyakumanoke.web.fc2.com/>

## 第6回 自治会執行部主催 七夕企画

今年も6月中旬から七夕当日にかけて、七夕企画を実施しました。これは愛学館入り口に笹を設置し、愛学館を訪れた方に、願い事を書いてもらうという企画です。

短冊には、勉強や恋愛など私生活に関する願いごとや、震災被害からの復興を願う短冊など、多種多様な願いごとが書かれていました。

七夕企画実施にあたり、協力していただいた学生課や教育後援会をはじめ、企画に参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。



## 掲載・受賞

薬剤学分野の研究内容が日本経済新聞に掲載されました

2012年(平成24年)8月7日(火曜日)

### シート貼って投薬 京都薬科大など 患者負担少なく

京都薬科大学は、バイオベンチャーのコスメディ製薬(京都市)と共同で、大塚製薬(京都市)と共同で、皮膚に貼る注射薬「シト」を開発した。シトは、皮膚に貼ると、皮下に薬剤を放出する。従来の注射薬は、100万分の1の薬剤を投与する必要があるが、シトは、100万分の1の薬剤を投与するだけで、皮下に薬剤を放出する。シトは、皮膚に貼ると、皮下に薬剤を放出する。従来の注射薬は、100万分の1の薬剤を投与する必要があるが、シトは、100万分の1の薬剤を投与するだけで、皮下に薬剤を放出する。



8月7日 火曜日

発行所 日本経済新聞社  
 東京本社 電話(03)3270-0251  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
 大阪本社 電話(06)6943-7111  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
 名古屋支社 電話(052)243-3311  
 〒460-0001 愛知県名古屋市中区栄3-1-1  
 西川支社 電話(011)281-3211  
 〒050-0001 北海道札幌市中央区南一条西5-1-1

シトは、皮膚に貼ると、皮下に薬剤を放出する。従来の注射薬は、100万分の1の薬剤を投与する必要があるが、シトは、100万分の1の薬剤を投与するだけで、皮下に薬剤を放出する。シトは、皮膚に貼ると、皮下に薬剤を放出する。従来の注射薬は、100万分の1の薬剤を投与する必要があるが、シトは、100万分の1の薬剤を投与するだけで、皮下に薬剤を放出する。

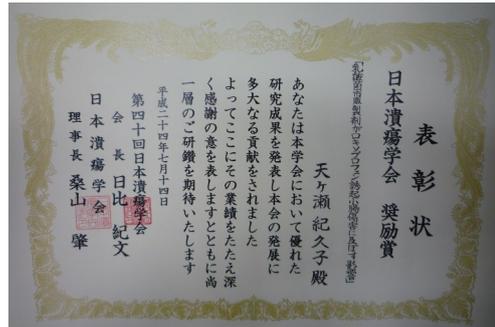
## 第40回日本潰瘍学会奨励賞を受賞

第40回日本潰瘍学会において薬物治療学分野の天ヶ瀬紀久子助教が奨励賞を受賞しました。

受賞内容：日本潰瘍学会 奨励賞

演題：乳酸菌市販製剤がロキソプロフェン誘起小腸傷害に及ぼす影響

演者：天ヶ瀬 紀久子、村上 季子、ジェンゲ メリンダ、竹内 孝治



## 第6回細菌学若手コロッセウム 若手奨励賞を受賞

第6回細菌学若手コロッセウムにおいて微生物・感染制御学分野の林直樹さんが若手奨励賞を受賞しました。

受賞者：博士後期課程3年次生 林 直樹

受賞内容：第6回細菌学若手コロッセウム 若手奨励賞

演題：Pseudomonas aeruginosaによる上皮細胞層透過機構の解析

細菌学若手コロッセウムは「若手研究者が集い、意見をぶつけ、かつ、お互いのフィールドを尊重し合いながら、若手全体が強くなっていく」という趣旨のもと、基礎細菌学研究・臨床研究を、様々な視点とアプローチで研究している若手研究者の切磋琢磨の場であり、これからの細菌学の礎を築く人材を育成することを目的として開催されています。



林直樹君が受賞した若手奨励賞は、本コロッセウムでの研究成果の発表内容と質問に対する応答が、運営委員に高く評価されたものであります。

林直樹君が受賞した若手奨励賞は、本コロッセウムでの研究成果の発表内容と質問に対する応答が、運営委員に高く評価されたものであります。

## 病態生化学分野の研究内容が日刊工業新聞に掲載されました

2012年(平成24年)7月6日 金曜日

日刊工業新聞

脂質代謝と肝臓病の関連性について、京都薬科大学の研究者が、動物実験と臨床試験を通じて、脂肪肝と肝臓病の関連性を明らかにした。脂肪肝は、肝臓に脂肪が蓄積する状態であり、肝臓病の原因の一つである。本研究は、脂肪肝と肝臓病の関連性を明らかにし、肝臓病の予防に役立つ可能性がある。

脂質代謝と肝臓病の関連性について、京都薬科大学の研究者が、動物実験と臨床試験を通じて、脂肪肝と肝臓病の関連性を明らかにした。脂肪肝は、肝臓に脂肪が蓄積する状態であり、肝臓病の原因の一つである。本研究は、脂肪肝と肝臓病の関連性を明らかにし、肝臓病の予防に役立つ可能性がある。

## 第18回日本心臓リハビリテーション 学会学術集会 優秀ポスター賞を受賞

第18回日本心臓リハビリテーション学会学術集会において健康科学分野の長澤吉則准教授が優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞内容：日本心臓リハビリテーション学会  
優秀ポスター賞

演題：維持期心臓リハビリ高齢患者における転倒恐怖感の有無が身体機能に及ぼす影響

演者：長澤 吉則、杉本 寛恵、下村 雅昭、  
千葉 真理子、中川 久恵

## 「身近な夏の不思議体験2012 イン 山科」開催

山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会と本学が主催する理科教室「身近な夏の不思議体験 2012 イン 山科」が9月2日、京都薬科大学にて開催された。本イベントは昨年に引き続き2回目の開催であり、山科地区の小学生を対象に理科に対する興味を持つきっかけになればと本学学生実習支援センターが中心となって行われた。当日は約450名の応募の中から抽選で選ばれた120名の小学生が参加し、午前の部（60人）と午後の部（60人）に分かれて実験を体験した。実験では、参加した小学生全員に白衣を配布し研究者としての雰囲気味わってもらおうと共に安全に対する理解を深めながら以下の2つの実験を行った。

尿素が水に溶ける際の吸熱反応を利用したヒンヤリカイロを作る実験では、尿素が溶解した瞬間「わー冷たい」という声が会場中から聞かれ、残暑の残る中、自然の不思議と共にひとときの涼を体験してもらうことが出来た。続くルシフェリンとルシフェラーゼを用いたホタルの発光現象を観察する実験では暗闇の中、黄色の発光が起こった瞬間、部屋中のあちらこちらで実際に蛍が飛んでいるような幻想的な雰囲気を参加者全員で楽しむことが出来た。さらに青く発光することで知られている海ホタルの発光も観察してもらい、生物の違いによる発光の色の違いを体験してもらうことが出来た。参加した生徒の中には目の前で起こっている現象に興味を持ち、水をもっと足したらどうなるのか、この液体とこの液体を混合したらどのような色になるのかといった事を積極的に質問し、自らのアイデアを試す生徒も多数みられ大人では思いつかない自由な発想に驚かされる一面も見られた。

昨年に引き続き2回目の開催とはいえ普段小学生相手の指導を行っていないため不安の中スタートした理科教室であったが、生徒と教員の垣根を越えたりラックスした雰囲気自然の不思議を体験することが出来た。今回の理科教室を通じて、自然の不思議

が身の回りに数多く存在し、これらの不思議を解明していく理科の面白さに少しでも気付いてもらえれば、本学教員として幸いである。最後に、本会の開催にあたり多大なご支援を頂きました山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業に深謝致します。

学生実習支援センター 助教 小関 稔



## お知らせ

### 第18回京都薬科大学公開講座 開催

2012年11月10日（土）に公開講座を開催いたします。今回の講演テーマは「放っておかないで、こんな胸部症状～心臓からのメッセージ～」と題して、本学臨床薬理学分野の小原 幸准教授が講演いたします。また、例年どおり健康チェックなども企画しておりますので、どうぞお越し下さい。

### 2012年度 学位記授与式（前期）

9月28日（金）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2012年度 学位記授与式（前期）が執り行なわれ、乾学長から、課程博士2名、論文博士2名に学位記（博士（薬学））が授与されました。

## 人事

### 採用

創薬科学系薬品化学分野 助教 小林 数也  
(2012. 10. 1付)

### 出向受入

事務局進路支援課 主幹 岩澤 伸裕  
(2012. 7. 1付)

### 配置換

事務局入試課 主査 前田 朋宏  
事務局会計課 主事 西村 浩子  
事務局入試課 主事 中野 美香  
事務局学生課 主事 加納 良章  
事務局教務課 主事 萩 範子  
(以上2012. 7. 1付)

## 京薬会だより

### <平成24年度京薬会支部総会の開催状況>

福井支部(6/17)、宮崎支部(6/30)、滋賀支部(6/30)、北海道支部(7/8)、鹿児島支部(7/22)がすでに開催され、今後は富山(10/14)、京都(11/11)、徳島(11/11)、香川(11/18)、九州総会・熊本(11/23)、愛知(11/25)の各支部総会開催が予定されています。本学より来賓の先生方にもご参加いただき各地で大学と地域の交流を深めております。

### <京薬祭とホームカミングデー>

今年度の京薬祭は11月2日～4日に開催されますが、この期間中の11月3日(土・祝)に、今年で第3回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。本年は乾学長による大学の近況に関する紹介に加え、河野名誉教授による学術講演(「花粉症」を予定)、西野会長による「京薬のいま、むか

し」と題する京都薬学校時代から現在に至るまでの様子を写した写真や資料、また本学に所蔵されている貴重な資料の紹介を予定しています。卒業生の大学への里帰り、新校舎の見学、懐かしい先生や同僚との歓談、さらには現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加を期待しております。

### <終身会員制の導入>

5月26日に開催された代議員総会において終身会員制の導入が承認され、今までの年会費制に加え、終身会員制を選択することができるようになりました。

詳しくは京薬会誌8月号をご覧ください。

## 京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- \* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- \* 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

### 2012年6月～2012年8月に寄附をお寄せいただいた方々

#### <卒業生・同期会等(卒業年次順)>

植村 典二(昭14)	斎藤 安正(昭41)	古本 良子(昭43)	イゼリ和代(昭47)	松井 常孝(昭55)
樫井謙太郎(昭23)	葛城 ユミ(昭42)	弓場 康之(昭43)	戸井 豊子(昭47)	京薬ラグー0B熟年会
松本 恒行(昭24)	宮秋 昭(昭42)	山口 勝弘(昭44)	井岡 万純(昭49)	
永浜 淳子(昭31)	山口 博行(昭42)	稲垣 美幸(昭45)	川崎 真子(昭49)	
北島 敬之(昭32)	富永 護(昭43)	高井マサ代(昭45)	和田 敬子(昭54)	
本岡美智子(昭37)	古本 靖弘(昭43)	清水 真弓(昭46)	新井 理恵(昭55)	

#### <企業・団体・一般>

キノンビクス株式会社

#### <法人役員・評議員・職員(五十音順)>

佐原 和美(係 長) 高野 江里(課 長) 森田 和子(理 事) 安本 義仁(課 長)

(2012年8月31日現在)